

火事はあわてず落ち着いて

火災現場ではあわてず冷静な判断が必要です。初期消火で火が消えなかったときは速やかに避難しましょう。

火災発生時の3原則 ▶ 身を守る!



1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に伝える。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火にあたり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を遮断する。



火元別初期消火のコツ ▶ 備える!



油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化学繊維は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

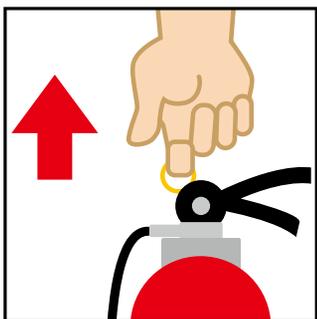
電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカも切る)消火を。

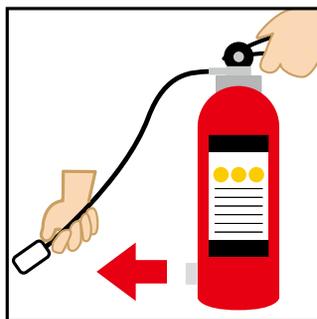
カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はありません。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

消火器の使い方 ▶ 覚える!



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

使用時のポイント

- 出口を背にして避難路を確保!
- 熱や煙を避けるように腰を落として姿勢を低く!
- ノズルをしっかり握って、煙や炎でなく火元をほうきで掃くように!

覚えておこう! 「119」のかけ方 ▶ ここをチェック

通報時は内容を落ち着いて正確に伝えましょう。

- ① 火災が発生していること
- ② 住所、出火場所、目印となる建物や施設
- ③ 火災の規模と燃えているもの
- ④ けが人や逃げ遅れた人はいるか
- ⑤ 通報者の名前と電話番号

